

東京海上・スタイルアルファ・ グローバルマクロファンド

当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | | |
|--------|--|---|
| 商品分類 | 追加型投信/内外/資産複合/特殊型（絶対収益追求型） (課税上は株式投資信託として取扱われます。) | |
| 信託期間 | 2019年9月30日から2029年8月20日 (2021年6月18日 繰上償還) | |
| 運用方針 | 信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 | |
| 主要投資対象 | 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロファンド | 「東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド」を主要投資対象とします。 |
| | 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド | 国内の債券を主要投資対象とし、国内外の債券先物取引および外国為替予約取引を主要取引対象とします。 |
| 投資制限 | 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロファンド | <ul style="list-style-type: none"> 株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。(ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合には限りません。) 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 |
| | 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド | <ul style="list-style-type: none"> 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。(ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合には限りません。) 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 |
| 分配方針 | 毎決算時に、原則として経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額の水準、市況動向等を勘案して分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。収益の分配に充当せず、信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。 | |

繰上償還 運用報告書（全体版）

第2期（償還日 2021年6月18日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロファンド」は、このたび、2021年6月18日をもって繰上償還となりました。ここに、運用経過と償還の内容をご報告申し上げます。長年のご愛顧に対し厚くお礼申し上げますと共に、今後とも当社ファンドにつきましてお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング

お問い合わせ窓口

東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016

受付時間：営業日の9時～17時

<https://www.tokiomarineam.co.jp/>

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

| 決算期 | 基準価額 (分配落) | 標準価額 | | 参考指数 | | 債組入比率 | 債券先物比率 | 純資産総額 |
|----------------|---------------|------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|
| | | 税金配分 | 騰落率 | 騰落率 | 騰落率 | | | |
| (設定日) | 円 銭 | | % | | % | % | % | 百万円 |
| 2019年9月30日 | 10,000 | — | — | 100.00 | — | — | — | 500 |
| 1期(2020年8月20日) | 7,942 | 0 | △20.6 | 99.97 | △0.03 | 50.4 | △57.1 | 397 |
| (償還時) | (償還価額) | | | | | | | |
| 2期(2021年6月18日) | 6,777.71 | — | △14.7 | 99.95 | △0.02 | — | — | 338 |

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債組入比率」は実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

(注) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

| 年月日 | 基準価額 | 標準価額 | | 参考指数 | | 債組入比率 | 債券先物比率 |
|------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | | 騰落率 | 騰落率 | 騰落率 | 騰落率 | | |
| (期首) | 円 銭 | | % | | % | % | % |
| 2020年8月20日 | 7,942 | — | — | 99.97 | — | 50.4 | △57.1 |
| 8月末 | 7,944 | 0.0 | 0.0 | 99.97 | △0.00 | 50.4 | △56.3 |
| 9月末 | 7,680 | △3.3 | △3.3 | 99.96 | △0.01 | 52.1 | △93.4 |
| 10月末 | 7,573 | △4.6 | △4.6 | 99.96 | △0.01 | 52.8 | △96.4 |
| 11月末 | 7,724 | △2.7 | △2.7 | 99.96 | △0.01 | 51.8 | △82.3 |
| 12月末 | 7,682 | △3.3 | △3.3 | 99.96 | △0.01 | 52.1 | △145.2 |
| 2021年1月末 | 7,485 | △5.8 | △5.8 | 99.96 | △0.01 | 53.5 | △96.4 |
| 2月末 | 7,303 | △8.0 | △8.0 | 99.95 | △0.01 | 54.8 | △103.7 |
| 3月末 | 6,600 | △16.9 | △16.9 | 99.95 | △0.02 | 60.6 | △128.1 |
| 4月末 | 6,821 | △14.1 | △14.1 | 99.95 | △0.02 | 58.7 | △201.5 |
| 5月末 | 6,784 | △14.6 | △14.6 | 99.95 | △0.02 | — | — |
| (償還時) | (償還価額) | | | | | | |
| 2021年6月18日 | 6,777.71 | △14.7 | △14.7 | 99.95 | △0.02 | — | — |

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債組入比率」は実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券先物比率」は実質比率を記載しています。

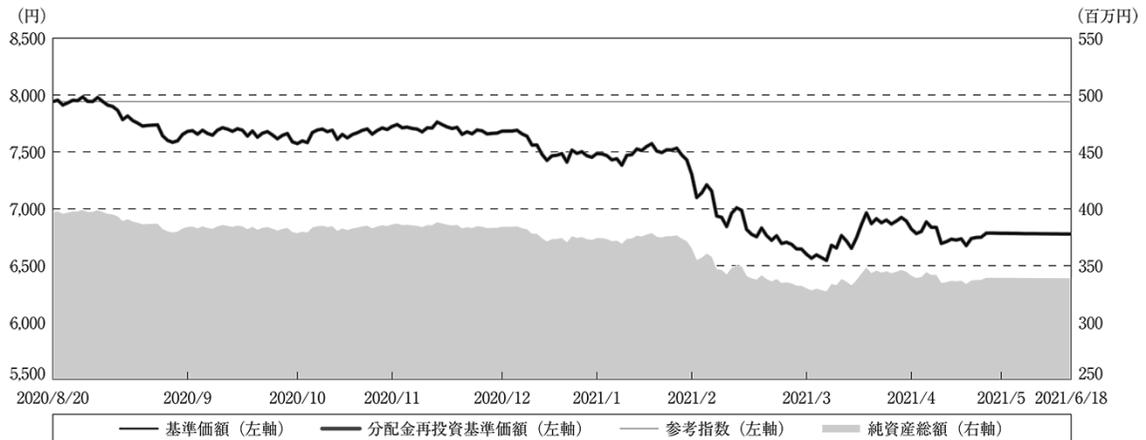
(注) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

参考指数は、無担保コール翌日物金利です。無担保コール翌日物金利は、設定日を100として指数化したものです。

○運用経過

(2020年8月21日～2021年6月18日)

■期中の基準価額等の推移



期 首： 7,942円

期末(償還日)： 6,777円71銭 (既払分配金(税込み)：-)

騰 落 率：△ 14.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかなについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首(2020年8月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・リスクプレミアム(リスク資産の期待収益率と無リスク資産の収益率の差)が適正に評価されて債券市場が反発する局面があったこと

マイナス要因

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞や、主要中央銀行による忍耐強い金融緩和策の維持等を背景に、証券価格の相関関係に乱れが生じ、リスクプレミアムが適正に評価されない局面があったこと

■投資環境

【グローバル債券市場動向】

国内債券市場は、日銀の金利変動の許容幅拡大に対する思惑から国債利回りは一時上昇しましたが、日銀が緩和的な金融政策を維持するとの見方が広がると低下基調に転じました。米国債券市場は、バイデン政権下での財政支出拡大に伴う財政悪化懸念やインフレ懸念を背景に米国債利回りが上昇しましたが、その後はFRB(米連邦準備制度理事会)が期待インフレ率の上昇は一時的との見方を示したことなどから低下基調となりました。欧州債券市場は、新型コロナウイルスの感染拡大が国債利回りの下押し圧力となる場面があったものの、総じて国債利回りが上昇する展開となりました。

【外国為替市場動向】

米ドルの総合的な価値を示すドルインデックスは、世界経済の先行きを楽観する見方が広がるなか、2020年12月末にかけて下落傾向が強まりました。2021年に入ると、米国の拡張的な財政政策を受けて米国債利回りが上昇し、ドルインデックスも上昇しましたが、4月以降は物価上昇に対する懸念が和らぐなか、米国債利回りが低下基調となったことからドルインデックスは下落しました。

■ポートフォリオについて

<東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロファンド>

「東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持しました。当ファンドの基準価額は、マザーファンドの値動きを反映し、14.7%下落しました。

<東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド>

国内外の債券先物取引および外国為替予約取引を積極的に活用することにより、特定の市場動向に左右されにくい収益の追求を目指しました。運用にあたっては、複数の価格変動要因（モメンタム、バリュウ、キャリー、クオリティ）に着目して資産の評価を行い、買建て（ロング）および売建て（ショート）によりポジションを構築するとともに、各ポジションのリスク水準や相関性等を勘案して配分を決定し、ポートフォリオを構築しました。

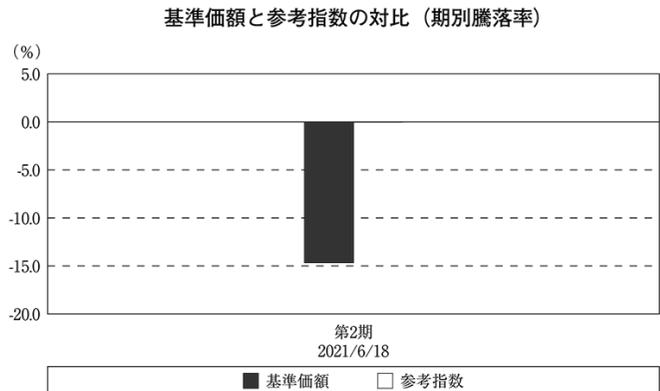
各国が揃って強力な金融緩和を維持するなかで、金利水準、金利差および金利差のボラティリティ（変動性）が縮小し、国別相対比較で債券・為替のロング・ショートは効果が出にくい市場環境が継続したため、パフォーマンスは低迷しました。2021年に入ると米国を中心に金利は上昇したものの、ロング・ショートによるヘッジ効果が表れず、ドローダウンが拡大することとなりました。

以上の運用の結果、基準価額は13.4%下落しました。

■当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けていません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

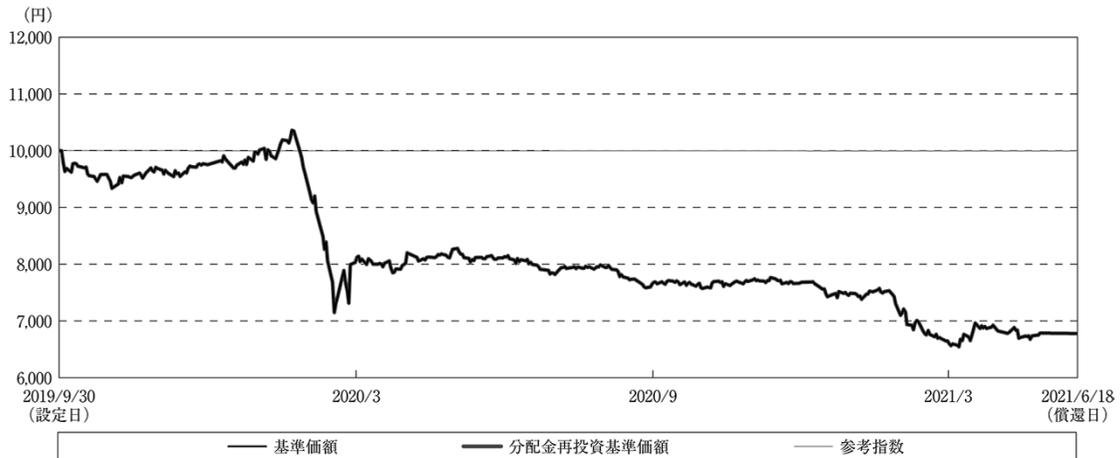
■分配金

該当事項はありません。

○設定来の運用経過

(2019年9月30日～2021年6月18日)

■設定来の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、設定時の値が基準価額と同一になるように指数化したものです。
- (注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・リスクプレミアム(リスク資産の期待収益率と無リスク資産の収益率の差)が適正に評価されて債券市場が反発する局面があったこと

マイナス要因

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞や原油価格の乱高下による信用リスクの高まり、主要中央銀行による忍耐強い金融緩和策の維持等を背景に、証券価格の相関関係に乱れが生じ、リスクプレミアムが適正に評価されない局面があったこと

■投資環境

【グローバル債券市場動向】

米中貿易協議の進展や英国の合意なきEU（欧州連合）離脱懸念の後退から、主要国の国債利回りは2020年初めにかけて上昇しましたが、3月に入り新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大すると急低下しました。その後FRB（米連邦準備制度理事会）の緊急利下げや大規模な量的緩和、ECB（欧州中央銀行）によるPEPP（パンデミック緊急購入プログラム）の導入などを受け、グローバル債券市場は落ち着きを取り戻しましたが、米国でバイデン大統領が誕生すると財政支出拡大に伴う財政悪化やインフレへの懸念を背景に国債利回りは上昇基調となりました。

【外国為替市場動向】

米ドルの総合的な価値を示すドルインデックスは、2020年3月に新型コロナウイルスの感染拡大を受けて一旦下落しましたが、FRBの緩和政策を受けて大きく反発しました。その後は欧州復興基金の設立への期待からユーロ高が進んだ影響もあり、2020年12月末にかけてドルインデックスは下落傾向となりました。2021年に入ると米国の拡張的な財政政策を受けて米国債利回りが上昇し、ドルインデックスも上昇しましたが、4月以降は物価上昇に対する懸念が和らぐなか、米国債利回りが低下基調となったことからドルインデックスは下落しました。

■ポートフォリオについて

<東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロファンド>

「東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持しました。当ファンドの基準価額は、マザーファンドの値動きを反映し、32.2%下落しました。

<東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド>

国内外の債券先物取引および外国為替予約取引を積極的に活用することにより、特定の市場動向に左右されにくい収益の追求を目指しました。運用にあたっては、複数の価格変動要因（モメンタム、バリュウ、キャリー、クオリティ）に着目して資産の評価を行い、買建て（ロング）および売建て（ショート）によりポジションを構築するとともに、各ポジションのリスク水準や相関性等を勘案して配分を決定し、ポートフォリオを構築しました。

新型コロナショックに伴うボラティリティ（変動性）の上昇や相関関係の乱れによって、リスクプレミアムが適正に評価されなかったことから、2020年1-3月期に基準価額は大きく下落しました。その後、各国が揃って強力な金融緩和を維持するなかで、金利水準、金利差および金利差のボラティリティが縮小し、国別相対比較で債券・為替のロング・ショートは効果が出にくい市場環境が継続したため、パフォーマンスは低迷しました。2021年に入ると米国を中心に金利は上昇したものの、ロング・ショートによるヘッジ効果が表れず、ドローダウンが拡大することとなりました。

以上の運用の結果、基準価額は30.1%下落しました。

■分配金

当ファンドについては、分配可能原資がないため、設定来、収益分配を行いませんでした。詳しくは、後掲の「投資信託財産運用総括表」をご覧ください。

当ファンドは、2021年6月18日をもちまして償還となりました。最後に、受益者の皆さまのご愛顧に心よりお礼を申し上げますとともに、今後とも当社ファンドにつきまして一層のお引き立てを賜いますよう、よろしくごお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年8月21日～2021年6月18日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|----------------------|-------|---------|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 103 | 1.397 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 |
| （ 投 信 会 社 ） | (54) | (0.728) | *委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価 |
| （ 販 売 会 社 ） | (47) | (0.637) | *購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| （ 受 託 会 社 ） | (2) | (0.032) | *運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料 | 9 | 0.128 | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 |
| （ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ） | (9) | (0.128) | *売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c) そ の 他 費 用 | 11 | 0.154 | (c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| （ 保 管 費 用 ） | (8) | (0.111) | *保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| （ 監 査 費 用 ） | (0) | (0.006) | *監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （ そ の 他 ） | (3) | (0.038) | *その他は、信託事務等に要する諸費用 |
| 合 計 | 123 | 1.679 | |
| 期中の平均基準価額は、7,359円です。 | | | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

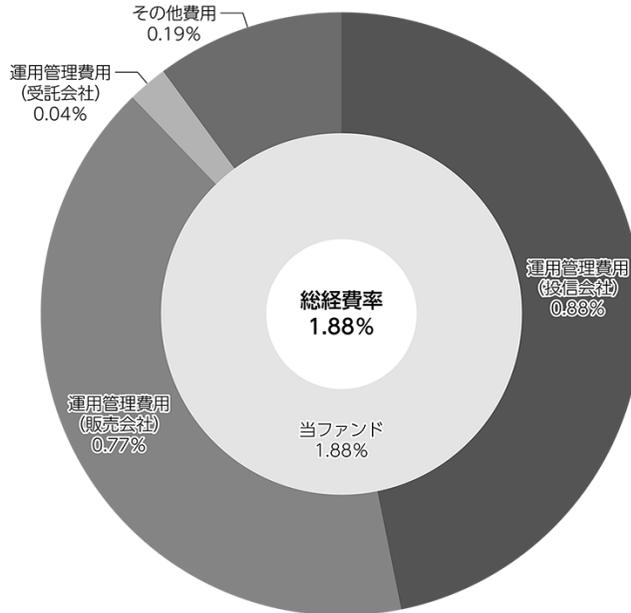
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.88%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年8月21日～2021年6月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

| 銘 | 柄 | 設 定 | | 解 約 | |
|-------------------------------|---|-----|-----|---------|---------|
| | | 口 数 | 金 額 | 口 数 | 金 額 |
| | | 千口 | 千円 | 千口 | 千円 |
| 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド | | — | — | 491,703 | 344,038 |

○利害関係人との取引状況等

(2020年8月21日～2021年6月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2021年6月18日現在)

2021年6月18日現在、有価証券等の組入れはございません。

親投資信託残高

| 銘 | 柄 | 期首(前期末) | |
|-------------------------------|---|---------|----|
| | | 口 数 | 千円 |
| 東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド | | 491,703 | |

○投資信託財産の構成

(2021年6月18日現在)

| 項 目 | 償 還 時 | |
|--------------|---------------|------------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| コール・ローン等、その他 | 千円 340,755 | % 100.0 |
| 投資信託財産総額 | 340,755 | 100.0 |

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2021年6月18日現在)

| 項 目 | 償 還 時 | 円 |
|-----------------|--------------|---|
| (A) 資産 | 340,755,492 | |
| コール・ローン等 | 340,755,492 | |
| (B) 負債 | 1,870,121 | |
| 未払信託報酬 | 1,869,049 | |
| 未払利息 | 1,072 | |
| (C) 純資産総額(A-B) | 338,885,371 | |
| 元本 | 500,000,000 | |
| 償還差損金 | △161,114,629 | |
| (D) 受益権総口数 | 500,000,000口 | |
| 1万口当たり償還価額(C/D) | 6,777円71銭 | |

(注) 当ファンドの期首元本額は500,000,000円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は0円です。

(注) 上記表中の1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2020年8月21日～2021年6月18日)

| 項 目 | 当 期 | 円 |
|------------------|--------------|---|
| (A) 配当等収益 | △ 1,072 | |
| 支払利息 | △ 1,072 | |
| (B) 有価証券売買損益 | △ 53,060,545 | |
| 売買損 | △ 53,060,545 | |
| (C) 信託報酬等 | △ 5,152,434 | |
| (D) 当期損益金(A+B+C) | △ 58,214,051 | |
| (E) 前期繰越損益金 | △102,900,578 | |
| 償還差損金(D+E) | △161,114,629 | |

(注) (C)信託報酬等は、消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 信託財産の運用指図に係る権限の一部を委託するために要した費用として、純資産総額に対して年1万分の45の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しています。

○投資信託財産運用総括表

| 信託期間 | 投資信託契約締結日 | 2019年9月30日 | | | 投資信託契約終了時の状況 | | |
|----------|--------------|--------------|-------------|-----------|--------------|--------------|--------------|
| | 投資信託契約終了日 | 2021年6月18日 | | | 資 産 総 額 | 340,755,492円 | |
| 区 分 | 投資信託契約締結当初 | 投資信託契約終了時 | 差引増減または追加信託 | 負 債 総 額 | 1,870,121円 | 純 資 産 総 額 | 338,885,371円 |
| 受益権口数 | 500,000,000口 | 500,000,000口 | 一口 | 受 益 権 口 数 | 500,000,000口 | | |
| 元 本 額 | 500,000,000円 | 500,000,000円 | 一口 | 1万口当たり償還金 | 6,777円71銭 | | |
| 毎計算期末の状況 | | | | | | | |
| 計 算 期 | 元 本 額 | 純資産総額 | 基準価額 | 1万口当たり分配金 | | | |
| | | | | 金 額 | 分 配 率 | | |
| 第1期 | 500,000,000円 | 397,099,422円 | 7,942円 | 0円 | 0% | | |

○償還金のお知らせ

| | |
|----------------|-----------|
| 1万口当たり償還金(税込み) | 6,777円71銭 |
|----------------|-----------|

東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド

繰上償還 運用報告書 第2期 (償還日 2021年6月17日)

(計算期間 2020年8月21日～2021年6月17日)

ここに、法令・諸規則に基づき、当マザーファンド（親投資信託）の直前の計算期間にかかる運用状況をご報告申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

| 決 算 期 | 基 準 価 額 | | 参 考 指 数 | | 債 券 組 入 比 率 | 債 券 先 物 比 率 | 純 資 産 額 |
|-------------------------|--------------------|--------|---------|--------|-------------|-------------|------------|
| | 期 騰 落 | 中 率 | 期 騰 落 | 中 率 | | | |
| (設定日) 2019年9月30日 | 円 銭 10,000 | % — | 100.00 | % — | % — | % — | 百万円 500 |
| 1期(2020年8月20日) | 8,076 | △19.2 | 99.97 | △0.03 | 50.4 | △57.1 | 397 |
| (償還時) 2期(2021年6月17日) | (償還価額) 6,990.64 | △13.4 | 99.95 | △0.02 | — | — | 340 |

(注) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

| 年 月 日 | 基 準 価 額 | | 参 考 指 数 | | 債 券 組 入 比 率 | 債 券 先 物 比 率 |
|---------------------|--------------------|--------|---------|--------|-------------|-------------|
| | 騰 落 | 率 | 騰 落 | 率 | | |
| (期 首) 2020年8月20日 | 円 銭 8,076 | % — | 99.97 | % — | % 50.4 | % △ 57.1 |
| 8月末 | 8,082 | 0.1 | 99.97 | △0.00 | 50.3 | △ 56.3 |
| 9月末 | 7,825 | △ 3.1 | 99.96 | △0.01 | 52.0 | △ 93.2 |
| 10月末 | 7,727 | △ 4.3 | 99.96 | △0.01 | 52.6 | △ 96.0 |
| 11月末 | 7,892 | △ 2.3 | 99.96 | △0.01 | 51.5 | △ 81.9 |
| 12月末 | 7,860 | △ 2.7 | 99.96 | △0.01 | 51.8 | △144.3 |
| 2021年1月末 | 7,670 | △ 5.0 | 99.96 | △0.01 | 53.0 | △ 95.7 |
| 2月末 | 7,493 | △ 7.2 | 99.95 | △0.01 | 54.8 | △103.7 |
| 3月末 | 6,783 | △16.0 | 99.95 | △0.02 | 60.5 | △127.9 |
| 4月末 | 7,019 | △13.1 | 99.95 | △0.02 | 58.5 | △200.8 |
| 5月末 | 6,992 | △13.4 | 99.95 | △0.02 | — | — |
| (償還時) 2021年6月17日 | (償還価額) 6,990.64 | △13.4 | 99.95 | △0.02 | — | — |

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

参考指数は、無担保コール翌日物金利です。無担保コール翌日物金利は、設定日を100として指数化したものです。

○運用経過

(2020年8月21日～2021年6月17日)

■期中の基準価額等の推移

期首：8,076円
 償還時：6,990円64銭
 騰落率：△13.4%

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・リスクプレミアム（リスク資産の期待収益率と無リスク資産の収益率の差）が適正に評価されて債券市場が反発する局面があったこと

マイナス要因

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞や、主要中央銀行による忍耐強い金融緩和策の維持等を背景に、証券価格の相関関係に乱れが生じ、リスクプレミアムが適正に評価されない局面があったこと



(注) 参考指数は、期首（2020年8月20日）の値が基準価額と同一になるように指数化したものです。

(注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

■投資環境

【グローバル債券市場動向】

国内債券市場は、日銀の金利変動の許容幅拡大に対する思惑から国債利回りは一時上昇しましたが、日銀が緩和的な金融政策を維持するとの見方が広がると低下基調に転じました。米国債券市場は、バイデン政権下での財政支出拡大に伴う財政悪化懸念やインフレ懸念を背景に米国債利回りが上昇しましたが、その後はFRB（米連邦準備制度理事会）が期待インフレ率の上昇は一時的との見方を示したことなどから低下基調となりました。欧州債券市場は、新型コロナウイルスの感染拡大が国債利回りの下押し圧力となる場面があったものの、総じて国債利回りが上昇する展開となりました。

【外国為替市場動向】

米ドルの総合的な価値を示すドルインデックスは、世界経済の先行きを楽観する見方が広がるなか、2020年12月末にかけて下落傾向が強まりました。2021年に入ると、米国の拡張的な財政政策を受けて米国債利回りが上昇し、ドルインデックスも上昇しましたが、4月以降は物価上昇に対する懸念が和らぐなか、米国債利回りが低下基調となったことからドルインデックスは下落しました。

■ポートフォリオについて

国内外の債券先物取引および外国為替予約取引を積極的に活用することにより、特定の市場動向に左右されにくい収益の追求を目指しました。運用にあたっては、複数の価格変動要因（モメンタム、バリュウ、キャリー、クオリティ）に着目して資産の評価を行い、買建て（ロング）および売建て（ショート）によりポジションを構築するとともに、各ポジションのリスク水準や相関性等を勘案して配分を決定し、ポートフォリオを構築しました。

各国が揃って強力な金融緩和を維持するなかで、金利水準、金利差および金利差のボラティリティ（変動性）が縮小し、国別相対比較で債券・為替のロング・ショートは効果が出にくい市場環境が継続したため、パフォーマンスは低迷しました。2021年に入ると米国を中心に金利は上昇したものの、ロング・ショートによるヘッジ効果が表れず、ドローダウンが拡大することとなりました。

以上の運用の結果、基準価額は13.4%下落しました。

○設定来の運用経過

(2019年9月30日～2021年6月17日)

■設定来の基準価額等の推移

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・リスクプレミアム（リスク資産の期待収益率と無リスク資産の収益率の差）が適正に評価されて債券市場が反発する局面があったこと

マイナス要因

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞や原油価格の乱高下による信用リスクの高まり、主要中央銀行による忍耐強い金融緩和策の維持等を背景に、証券価格の相関関係に乱れが生じ、リスクプレミアムが適正に評価されない局面があったこと

■投資環境

【グローバル債券市場動向】

米中貿易協定の進展や英国の合意なきEU（欧州連合）離脱懸念の後退から、主要国の国債利回りは2020年初めにかけて上昇しましたが、3月に入り新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大すると急低下しました。その後FRB（米連邦準備制度理事会）の緊急利下げや大規模な量的緩和、ECB（欧州中央銀行）によるPEPP（パンデミック緊急購入プログラム）の導入などを受け、グローバル債券市場は落ち着きを取り戻しましたが、米国でバイデン大統領が誕生すると財政支出拡大に伴う財政悪化やインフレへの懸念を背景に国債利回りは上昇基調となりました。

【外国為替市場動向】

米ドルの総合的な価値を示すドルインデックスは、2020年3月に新型コロナウイルスの感染拡大を受けて一旦下落しましたが、FRBの緩和政策を受けて大きく反発しました。その後は欧州復興基金の設立への期待からユーロ高が進んだ影響もあり、2020年12月末にかけてドルインデックスは下落傾向となりました。2021年に入ると米国の拡張的な財政政策を受けて米国債利回りが上昇し、ドルインデックスも上昇しましたが、4月以降は物価上昇に対する懸念が和らぐなか、米国債利回りが低下基調となったことからドルインデックスは下落しました。

■ポートフォリオについて

国内外の債券先物取引および外国為替予約取引を積極的に活用することにより、特定の市場動向に左右されにくい収益の追求を目指しました。運用にあたっては、複数の価格変動要因（モメンタム、バリュウ、キャリー、クオリティ）に着目して資産の評価を行い、買建て（ロング）および売建て（ショート）によりポジションを構築するとともに、各ポジションのリスク水準や相関性等を勘案して配分を決定し、ポートフォリオを構築しました。

新型コロナショックに伴うボラティリティ（変動性）の上昇や相関関係の乱れによって、リスクプレミアムが適正に評価されなかったことから、2020年1-3月期に基準価額は大きく下落しました。その後、各国が揃って強力な金融緩和を維持するなかで、金利水準、金利差および金利差のボラティリティが縮小し、国別相対比較で債券・為替のロング・ショートは効果が出にくい市場環境が継続したため、パフォーマンスは低迷しました。2021年に入ると米国を中心に金利は上昇したものの、ロング・ショートによるヘッジ効果が表れず、ドロウダウンが拡大することとなりました。

以上の運用の結果、基準価額は30.1%下落しました。

当ファンドは、2021年6月17日をもちまして償還となりました。最後に、受益者の皆さまのご愛顧に心よりお礼を申し上げますとともに、今後とも当社ファンドにつきまして一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくご依頼申し上げます。



(注) 参考指数は、設定時の値が基準価額と同一になるように指数化したものです。

(注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年8月21日～2021年6月17日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|---|----------------------|-----------------------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 売 買 委 託 手 数 料 (先物・オプション) | 円 10 (10) | % 0.127 (0.127) | (a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 * 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他) | 12 (9) (3) | 0.164 (0.125) (0.040) | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 * 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 * その他は、信託事務等に要する諸費用 |
| 合 計 | 22 | 0.291 | |
| 期中の平均基準価額は、7,534円です。 | | | |

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○ 売買及び取引の状況

(2020年8月21日～2021年6月17日)

公社債

| | | 買 付 額 | 売 付 額 |
|--------|------|---------------|----------------------------|
| 国 内 | 国債証券 | 千円 600,158 | 千円 200,022 (600,000) |

(注) 金額は受渡代金です。(経過利子分は含まれていません)

(注) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれていません。

○派生商品の取引状況等

(2020年8月21日～2021年6月17日)

先物取引の銘柄別取引・残高状況

| 銘柄別 | | | 買 建 | | 売 建 | | 当 期 買 建 額 | 末 評 売 建 額 | 価 額 | |
|--------------|--------|--------------|------------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|-----|-----|
| | | | 新 買 付 額 | 規 決 済 額 | 新 売 付 額 | 規 決 済 額 | | | 評 損 | 価 益 |
| 国 内 | 債券先物取引 | 10年国債標準物 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| | | | — | — | 3,638 | 3,944 | — | — | — | — |
| 外 | 債券先物取引 | US 10YR NOTE | 315 | 316 | — | — | — | — | — | — |
| | | US 10YR NOTE | 405 | 406 | — | — | — | — | — | — |
| | | US 10YR NOTE | — | 29 | — | — | — | — | — | — |
| | | US 10YR NOTE | 321 | 315 | — | — | — | — | — | — |
| | | CAN 10YR BND | 400 | 399 | — | — | — | — | — | — |
| | | CAN 10YR BND | 358 | 369 | 24 | 25 | — | — | — | — |
| | | CAN 10YR BND | — | 74 | — | — | — | — | — | — |
| | | CAN 10YR BND | 287 | 288 | — | — | — | — | — | — |
| | | AUST 10YR 6% | 232 | 237 | — | — | — | — | — | — |
| | | AUST 10YR 6% | 105 | 106 | — | — | — | — | — | — |
| | | AUST 10YR 6% | — | 345 | — | — | — | — | — | — |
| | | AUST 10YR 6% | 218 | 219 | — | — | — | — | — | — |
| | | LONG GILT FT | 94 | 96 | 155 | 159 | — | — | — | — |
| | | LONG GILT FT | 136 | 136 | 78 | 79 | — | — | — | — |
| | | LONG GILT FT | — | — | — | 38 | — | — | — | — |
| | | 国 | 債券先物取引 | LONG GILT FT | 128 | 131 | 38 | 36 | — | — |
| EURO-OAT FUT | 63 | | | 64 | 128 | 127 | — | — | — | — |
| EURO-OAT FUT | 444 | | | 449 | — | — | — | — | — | — |
| EURO-OAT FUT | — | | | 145 | 103 | 104 | — | — | — | — |
| EURO-OAT FUT | 83 | | | 84 | 168 | 169 | — | — | — | — |
| EURO-BUND FU | — | | | — | 453 | 451 | — | — | — | — |
| EURO-BUND FU | — | | | — | 378 | 383 | — | — | — | — |
| EURO-BUND FU | — | | | — | — | 481 | — | — | — | — |
| | | EURO-BUND FU | — | — | 369 | 377 | — | — | — | — |

(注) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2020年8月21日～2021年6月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2021年6月17日現在)

2021年6月17日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2021年6月17日現在)

| 項 目 | 償 還 時 | |
|--------------|---------|-------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| | 千円 | % |
| コール・ローン等、その他 | 340,755 | 100.0 |
| 投資信託財産総額 | 340,755 | 100.0 |

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2021年6月17日現在)

○損益の状況 (2020年8月21日～2021年6月17日)

| 項 目 | 償 還 時 |
|-----------------|--------------|
| | 円 |
| (A) 資産 | 340,755,864 |
| コール・ローン等 | 340,755,864 |
| (B) 負債 | 372 |
| 未払利息 | 372 |
| (C) 純資産総額(A-B) | 340,755,492 |
| 元本 | 487,445,045 |
| 償還差損金 | △146,689,553 |
| (D) 受益権総口数 | 487,445,045口 |
| 1万口当たり償還価額(C/D) | 6,990円64銭 |

| 項 目 | 当 期 |
|--------------------|--------------|
| | 円 |
| (A) 配当等収益 | △ 25,801 |
| 受取利息 | 115 |
| 支払利息 | △ 25,916 |
| (B) 有価証券売買損益 | △ 21,111,936 |
| 売買益 | 99,961,237 |
| 売買損 | △121,073,173 |
| (C) 先物取引等取引損益 | △ 31,297,632 |
| 取引益 | 25,324,092 |
| 取引損 | △ 56,621,724 |
| (D) 保管費用等 | △ 633,049 |
| (E) 当期損益金(A+B+C+D) | △ 53,068,418 |
| (F) 前期繰越損益金 | △ 94,595,804 |
| (G) 解約差損益金 | 974,669 |
| 償還差損金(E+F+G) | △146,689,553 |

(注) 当親ファンドの期首元本額は491,703,099円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は4,258,054円です。

<元本の内訳>

東京海上・スタイルアルファ・グローバルマクロマザーファンド 487,445,045円
 (注) 上記表中の1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

(注) (G)解約差損益金は、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分です。